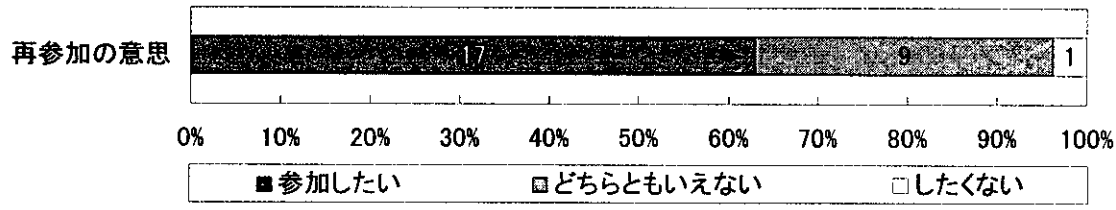


図2-16 自分自身の再参加の意思

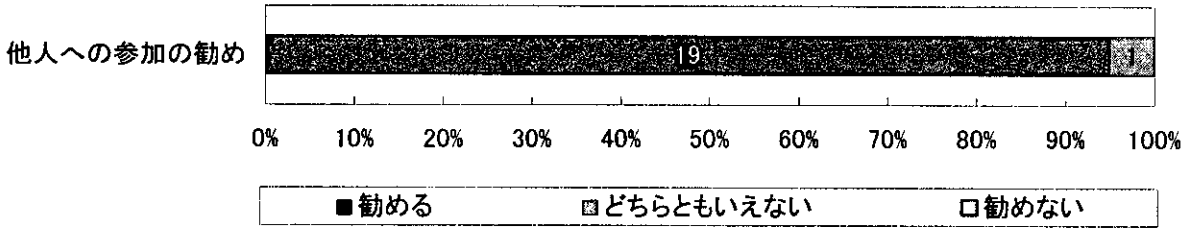


図2-17 他人への参加の勧め

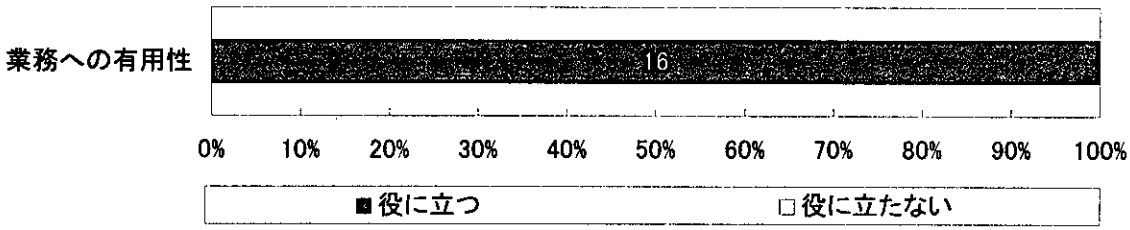


図2-18 業務への有用性

表2-13 ワークショップに関する希望

時期

1．夏休みで参加できるのがありがたいです。
2．学校の行事も少なく動きやすい日程だった。
3．台風など天候不順のため、10月か11月の方がよい。
4．いつでもよい。

時間

1．夏休み以外は土日を希望します。
2．台風による混乱がなければ楽に移動できる時間であったと思う。
3．夕方は3時半位で終わってほしい。
4．両日でも丸一日でもよかった。
5．2日間とも10:00－16:00程度

期間

1．充実してよい。今回のような期間を希望。
2．このプログラムを1日で済ますのは難しいと感じる。
3．3日間は必要。

場所

1．東京・大阪・名古屋以外は参加しにくい状況です。
2．千里ライフサイエンスセンター（会場費安い）
3．中間地点の名古屋くらいでしたらいいのですが・・・
4．東京または大阪。交通の便がよいところ。
5．交通の便のよいところ。
6．今後も時々は西日本でも行ってほしい。
7．関東・近畿の2会場での開催。

案内の方法

1．参加した者には案内してほしい。本人が参加せずとも他の人に勧められる。
2．広報すべき。少なくともWebで流して欲しい。
3．上司に勧められて参加。私の所へ案内は着いておりません。

表2-14 今後の業務に役立つと感じた点

1．RCT,CCTを理解することで、今までよりもより適切な情報提供が出来ると思いました。（各データベースが、現在キーワードとしてRCT,CCTをどのように付与しているかなど役立った。）
2．今すぐに役立つとは思わないが、今後臨床家等からの要望が強まり、またこちらから働きかけて利用してもらう際の基礎知識習得としては役立った。これからどのような情報をどのように提供していくか等について具体的に考えていく必要があると思う。
3．EBMを支える枠組みを学ぶプログラムであり、これらを知ることで利用者の支援が出来ると思いました。
4．小生は直接的な担当者ではありませんが、（営業）、話題としての情報提供が出来る。EBM対応のHP,Dの製薬メーカーの情報収集がよりうまく出来る。
5．EBMの理念は看護学にとっても基本でありますので、Nurseに何かの看護について疑問が生じた場合、CINAHLやMEDLINEで検索し、文献レビューなどを参考にしながら患者さんに対応出来るのではないかと思いました。
6．The Cochrane Libraryの導入を検討中なので、それに関するお話が聞けたのがよかった。
7．データベースを作成する側としてEBMにどのように取り組むべきか、今後の方向性が肌で感じられた。
8．先生方が、必要とされる文献の判断にとても役立つと感じました。
9．検索ファイル、その使い方などは情報部門に異動した当初に講習会に参加して習得したがCochrane LibraryやPubMed等は教えてもらう機会がなく、今回の講習会の形で習うことが出来た点。
10．役に立つと感じた。
11．大学院生や看護婦と違って、医師の方はあまり図書館員に問題をぶつけてこないので今回のように臨床の視点からの情報要求についてお話を伺うことが出来たのは大変有益でした。
12．今度三大データベースを十分に使いこなしたい。又廣瀬講師のハンドサーチは、文献を見分けるのに十分役立つと思う。利用者に文献を提供する際にRCT,CCTを教示できればライブラリアンの評価が高められる。充分研修し、価値ある文献を提供したい。
13．DB検索の実務面だけでなく、情報提供についてのヒント（考え方）が新たになる。
14．今まで外国の論文の検索の要求もほとんどなく、国内文献の検索も医中誌のみに頼ってきました。又検索結果が出てきた段階で満足し、論文、検索の質にまでこだわっていないのが現状です。こういった状況を改善しなければと考えていたので、今回の研修全般について役立つと感じました。
15．有用論文の選択。的確なDB検索
16．コクランライブラリーは現在使用していないが、今後利用する機会がくると思われるので、その際、非常に有用であると思われます。また"EBM"の概念がよく分かった。
17．EBMについて、現場での実際的な効用について理解できた。データベース作成者として、EBMへの取り組みの姿勢がいっそう充実させることの必要を感じた。
18．コクランライブラリーの実際について、知る機会が今までなかったため今回大変役に立ちました。今後とも、よろしくお願い申し上げます。
19．各データベースの特徴をつかんだ上で利用者にガイド出来るようになる。どうしてテクニックが必要かと利用者から尋ねられても「診療行為は科学的根拠に基づかなければいけない。そのために精度の高い情報収集をしなくてはならない」と説得できるようになる。だろうと思った。
20．私の部門は、医療関係からの問い合わせを受ける部門で、今後もEBMについての質問が多くなることが予測されますので。
21．MEDLINE.、Cochrane Library,日本の医学DBとの比較。

22．弊社サービス内容の一つとして、EBM関連データベースやPubMedのカスタマイズ提供に役立ちます。また、多くのサーチャーが弊社におりますので、どのような事がサーチャーに要求されるかという点で訓練と啓発になりました。
23．Cochrane DBについて詳細が分かった。
24．私のように「情報収集（ステップ2）」と「批判的吟味（ステップ3）」だけがEBMだと思っている者が多かったと思うので、名郷先生の講義は感動した。医療情報を扱う者として、普段その丸味（質）をあまり考えたことがなかったが、今後は注意したいと思う。
25．即、日常業務に生かせる。「PubMed」の使い方の講義もあったし、EBMはまだまだ当院では浸透していないが、今後、必ず役に立つ日が来ると思います。
26．EBMに関する基礎的知識（EBMの解釈、言葉・用語の理解等）の習得及び関心。これからの業務での必要性と利用者への文献提供の手助けの入り口となった。

表2-15 特に印象に残った点

1．EBMを実践することは大変なことなんだ。そんなEBMに私たち図書館員がどう関われるんだ。と、考えていましたが、はじめに名郷先生が僻地医療に実践されているお話を伺って、EBMを身近なものとして捕らえることができるようになりました。EBMを理解し、RCT,CCT文献を探せるようになると、今までとはまた違った形で利用者に情報提供が出来ると思います。
2．1日目を聞いていませんので、2日目のみです。JMEDCINEと医中誌の比較を聞きたかったので丁度よかったです。ハンドサーチの実際は時間が短くて難しかったのですが、一番印象に残りました。
3．初めての聴講でしたので、全てが参考になりました。国内三大DBの使い方はinterestingでありました。
4．RCT、CCT論文を探すのに手作業でやっていることに驚きました。
5．1日目は予定されていた5プログラムのうち、3プログラムが実際に行われた。そのため、1プログラムの時間が予定より長めに行われ、アクシデントを覆そうとする先生方の情熱も感じられ、かえって印象深いワークショップであった。
6．EBMに関わってみえる方の熱意
7．廣瀬講師のハンドサーチは初めの講義で興味深かった。今回の講義及びテキストを復習し、再度講義を聴き理解を深めたい。演習Ⅰでは時間が十分あり、非常に有意義であったが、演習Ⅱはもっと時間が欲しかった。
8．コクンライブラリーの仕組みと検索。ハンドサーチの有用性。
9．国内DBが、PubMedに比し、抄録数が少なく、バックメンテナンスも遅れている点が特に印象に残りました。業者の方もその辺りの改善をはかって下さるとのことでしたが、これさえ検索すれば国内文献に関しては網羅できるというDBの出来ることを望みます。出来れば予算の少ない当館でも導入しやすい価格のものを。
10．現場でのEBM(名郷先生 )や、コクランライブラリーの使い方で、利用する側からのEBMが実感出来た。
11．名郷講師のお話で、作手村のような僻地医療の現場で、世界中から集められたEvidenceを日曜診療の中で活かされていることに感動した。また、福岡講師のコクランライブラリーの使い方の中で、Blobbogramの観方が分かったところが勉強になった。
12．外国のデータベース構築の目的が明確に分かる反面、国内データベースのいい加減さが強調されてくる。しかし、日本に居る(たまたまですが)以上、ないよりはましくらいの姿勢でもよいから使いこなしていかないといけないと思った。
13．文献のデータベースを検索してもかなりRCTの論文に漏れがあること。
14．IMICの宇山氏による日本の医学DBにおけるEBM関連文献サーチの難しさ。
15．基本的なEBMの概念やCochraneについての理解が深まりました。
16．名郷先生の実践に基づいたEBMのお話。
17．私のように「情報収集(ステップ2)」と「批判的吟味(ステップ3)」だけがEBMだと思っている者がなかったと思うので、名郷先生の講義は感動した。医療情報を扱う者として、普段その丸味(質)をあまり考えたことがなかったが今後は注意したいと思う。
18．天気の影響で仕方がない点ですが、山崎さんの講義を聞いてみたかったです。
19．1日目の総論と2日目の各論で多少はEBMの基礎が理解できたつもりでいたが、2日目のハンドサーチでいかに文献の性質を理解することが難しいか、訓練が必要であることを痛感した。(ランダム化比較試験論文の探し方)

表2-16 次回ワークショップへの希望

1．関西での（CASPワークショップの）開催を希望します。
2．ある症状のこんな患者さんの治療に関しては、このデータベース、情報源を使って、このような情報を提供できるといったような実習形式のワークショップ。
3．このプログラムはとてもいいと思いますので、同じような内容を希望します。ハンドサーチの実際は演習時間をもっと長くしていただかないとついていけません。
4．海外DBの比較・使い方の解説をお願いしたい。※MED,PubMed,(GM等),EM,Internet/online
5．内容が盛りだくさんなことに加え、新しい言葉や概念、耳慣れない言葉が多く、ついていけないところが数多くあった。一つのプログラムの時間を長めにとってじっくり行って欲しい。
6．いろんな論文を読みたい。
7．検索の上で落とし穴や、上手な検索の方法の例をあげて説明して欲しい。また、EBMを支えるリサーチライブラリアンとしての資質を磨くために必要な内容を含めて欲しい。臨床医への情報サービスが主となる病院図書室の司書には是非研修を重ねたい。
8．端末を使う実習・演習に時間を割く・CASPも加える。
9．私は日頃検索の機会も少ないので、検索法の演習もしたかった。（他の研修の場もあると思うので、あえてこちらで行う必要はないかも知れませんが）
10．Medline以外の海外データベースでの、RCTetcの索引についても紹介があればと思います。
11．研究デザインについて、より具体的、初歩的な解説が欲しい。時間を少し長くして、具体例をもっと盛り込んでいただけたら、より分かりやすいものになったと思う。日本のデータベースはまだEBM対応がこれからなので、実際にEBMが反映されるようなものになるまで、あまり詳しく触れなくても良いと思った。
12．臨床現場でのEBM実践の報告を聴きたい。また、外国でスタンダードとされている診療行為と日本との比較。双方の根拠としているものの比較。コスト比較。
13．国内だけでなく、国外の文献データベースの使い方や比較も教えていただきたいです。
14．PubMedやCochrane Library によるEBM関連文献の実習に的を絞ったWSを開催してはどうか
15．おそらくライブラリアンのための教育的意義が強いと思いますので、繰り返し基礎をしっかり研究、訓練する場であっていただきたいと思います。
16．Ⅰ-1の山崎先生の講義が聴けなかったのでそれを受講したい。
17．各々有用だったのですが、EBMとしてはもう少し演習をグループに分けてするとか、一度に何題もせずに、5題くらいずつ、間に回答を入れながらするとか工夫していただけると、理解力が深まるかなと思いました。
18．用語の解説にも時間を割いて欲しい。データベースの構造、利用方法について十分に時間をかけていただきたい。

表2-17 テキストに関する意見

1．特になし。遠隔地にいると研修等に出る機会が少ないので、資料が多いのは復習に使えてありがたい。
2．ハンドサーチの演習Ⅰに、雑誌「麻酔」の中の一論文があると、より分かりやすかったと思います。演習Ⅰで少し分かったつもりでも、演習Ⅱでは、時間が短かったこともありますが、全くわけが分からなくなり、出来ませんでした。
3．一部、配布資料の字が小さいことから、スライドの画面（字の色）が見にくい点がありました。
4．文字が細かすぎて読みにくい資料があったので、改善して欲しい。
5．大変貴重なテキストをいただき、感謝しております。
6．連絡の際にも言われたが、かなりの量のテキスト、資料が配布されるという点は、事前に案内しておいて欲しい。ファイルする資料が予め綴じこんでいない場合、頁数を記入しファイル穴をあけておいて欲しい。（ファイル穴については予めあけてあるものもあったが）
7．ハンドサーチの例題で、例題8及び例題15が元々の症状や経過（例題8）、社会集団（例題15）の違いによって分けられているのに、前者はCCTとされ、後者は「その他」をされたもののこの点が問題にされなかったという点が、よく理解できませんでした。
8．「EBMのための情報戦略」のテキストは非常に役立つと思う。十分使いこなしたい。バインダーの中の資料もわかりやすく、OHPの画面が含まれていたことは有難かった。
9．テキストと本の内容が異なると、その場で納得したつもりでも、後で読み返した時に混乱するので、変更箇所等があった場合、正誤表をつけた方がよいのではと考える。
10．非常に盛りだくさんのテキストですが、少し多すぎるように思います。演習用の資料は回収でもいいと思います。
11．EBMのための情報戦略の冊子がよくまとまっていて、最新の情報が掲載されているとのことなので、今回のワークショップを復習するのによい教材であると思った。文房具類は不要だと思う。
12．台風の影響で変則的であったことは止むを得ないにしても、講義用のレジュメの配布は必要だと思う。講義終了後にスライドショーOHPの出力分を配布すべき。
13．「EBMのための情報戦略」はライブラリアンやEBMを実践していく現場の方たちに必要な知識がコンパクトにまとめられていて、いい教材でもあると思う。
14．諸々のしがらみがあるのかもしれないが、A-2～A-4の講義は必要ないように感じた。

表2-18 EBM実践への意見・希望

1．国内発行雑誌掲載論文（文献）における、EBM関連記載用語の統一とRCT及びCCTをキーワードとして付与することの義務付け。
2．臨床家、図書館員等がEBMの理解を深めることが大切。その上で、どのような情報をどのように使うかを具体的に考えていく必要があると思う。
3．まとめで、津谷先生が「論文が分かりにくいのは、書き方の問題」とおっしゃっていらしたのが印象的でした。日本語論文ではハンドリサーチも重要です。まず、編集・出版の段階でEBMに基づく論文を作ることが実践への第一歩と感じました。
4．医療現場のDrとEBM推進者との隔たりがあるように思います。日本の出版社は掲載投稿論文集めにあり、品質のレベルが低すぎる。無心さ状態（？）出版・編集の啓蒙教育が必要。（臨床報告投稿原稿はメーカーで作成されているとも聞きます。）
5．研究者が論文発表する場合、ハンドサーチしやすいように、記入項目が国内で統一さえていればと思う。国内のデータベースでさかのぼって検索できるようになれば助かる。
6．研究者が分かりやすい論文を書くことが最も基本的なことのように思う。そうすれば、抄録化や、データベース化もしやすくなる。
7．このような会をどんどん持っていただき、養成していただきたいです。
8．日本語文献にも、Stracture Abstractを是非つけて欲しい。司書が所属機関での医学雑誌の編集を担っていることが多いので、投稿規定に含めて行きたい。
9．今回、実際にハンドサーチを体験して、用語についての判断が難しく、見落としもかなりありました。一つの論文も複数人でチェックする必要もあり、EBMが実践されていく上には、ハンドサーチャーの要請が不可欠であると感じました。そのためには、今回の内容以上に、連続したプログラムで研修を行う必要があると思います。
10．今後、EBMの実践が医薬品の効能追加や適応外使用につながるようになれば、企業も加わり、さらに広がると思います。
11．データベース作成側としては、EBMが文献の執筆者の間に浸透し、文献の構造がEBMでの位置付けが見分けられやすいものになって欲しい。又、コクランライブラリーの解説書のようなものが出版され、臨床家、研究者の間で普及するとよいと思う。
12．とにもかくにも、網羅された文献情報データベースの統合。企業間、あるいは法人間で統合する形態ではいつまでたってもよいデータベースは構築できない。日本のあちこちで重複作成せず、これぞ日本のデータベースというものを作っていかないといけないと考える。
13．医学雑誌の編集サイドや論文の書き手の側もEBMにそくした文献の作成（たとえば構造化抄録の導入など）に取り組むべきであると思う。
14．このようなEBMトレーニングをもう少し増やすことが必要ではないでしょうか。
15．A-1の宇山先生がおっしゃったように国内データベースに論文種類がRCT等が加えて分類しなおされればよいと思った。
16．検索もの漏れが重要なポイントとなりそうなので、日本語の場合特にこの点を着目したキーワードの付与をお願いしたい。

表2-19 その他の意見・要望

1．豪雨によるアクシデントにもかかわらず、各講師の先生方、関係者の方々のご尽力で、2時間のワークショップを受講することが出来ました。大変御苦労様でした。ありがとうございました。今後もこのような形のワークショップがあれば、他の館員にも参加させたいと思いますし、私も違った形のものであれば、参加したいと思います。

2．大変素晴らしいプログラムで、一日しか受講できず残念でした。先にも書きましたが、ハンドサーチの解説と演習は、もっと時間をとって、演習後の説明を特にゆっくりとやっていただきたかったです。（個人的には治験論文以外の読み方がまだよくわかりません）また、突然テストがあり、ケアレスミス回答もしてしまいました。研修成果判定についてはテストではなく、チェックリストを配ってアンケートと一緒に送付したらよいと思います。チェックリストは、各講義の中から必ずこれだけは覚えておくことをピックアップし、4択（記述では採点が大変でしょうから）で解答を記入します。10の講義があれば、100個位になるのでしょうか。雑用に追われる日常業務で、教えていただいたことも忘れがちですので、帰ってから宿題で解答する方が小テストよりも記憶に残るのではないでしょうか。また、ハンドサーチの方法は、途中から頭が混乱してきて、よく分からなくなりましたので、可能であればもう一度受講させていただき理解したいと思っています。

3．田部井先生＝あまり動き回らないで下さい。（スミマセン！）出席者の名札（大型）があれば良かった。（親睦会では特に必要）大勢参加する様要請も。各DB（Japic,Jmed,医中誌）では宣伝色が強すぎた。（テーマを決めての検索事例発表を望みます。）田部井先生のデータ投影画面にJSTの宣伝（？）があり不快。
皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

4．交通機関の関係で1日目の講座を聞けなかったのが残念です。特に福岡先生のを楽しみにしておりました。ハンドサーチについては、このようなアバウトなやり方でいいのかと思いましたが、本当のサーチャーになる場合は相当に厳しい講義を受けるのでしょうか。

5．2日目のA-1～A-4のプログラムは、重複が多かったので構成や時間配分、内容にもうひと工夫を望む。受講者がパソコンを操作できるような会場で実際に検索するなどの、具体的な体験を盛り込んでもよいかもしれない。特に「PubMedの使い方」などで出来そうに思うが。どうだろうか？

6．だれもがとても興味を持っていることだと思います。私も、このような会に参加できる機会があったことをとても嬉しく思います。ありがとうございました。

7．東海地方の豪雨の影響のため、講演が忙しいきらいがあった。9/12夕方に懇親会があることは予め案内に記載しておいて欲しい。

8．少し勉強してから参加したほうがよかった。

9．ご迷惑でなければ、講師の方のe-mailアドレスをお教えいただければ、今後のために有益だろうと思います。アンケートの項目（特に全体を通しての記述項目）が多い割に、終了後ゆっくり書く時間がなく残念です。

10．今回は充実した内容のワークショップをありがとうございました。天候のためのアクシデントにより山崎茂明講師の講義がなくなったことが残念でした。時間が短縮されましたが田部井講師の講義を翌日に加えていただきありがとうございました。この両氏の講義は次回のプログラムに是非入れていただき、参加したいと思います。普段使い慣れたデータベースであっても、やはり何か一つでも必ず収穫があるもので、度重ねて参加したいと思います。
EBMというワードが盛んに使われていますが、その正しい知識をもって活用している者は少ない様に思います。溢れるような情報の中で、ランダム化された情報を見分け提供することこそこれからのライブラリアンの仕事と考えます。その意味で私どもライブラリアンはEBMについてもっともっと研修を重ねていくべきです。諸講師の方々のご指導をよろしくお願いいたします。
廣瀬講師の「ハンドサーチの実際」についての講義は非常に役に立ちます。今回の講義は初めてでしたが、よく理解することによりランダム化比較試験論文が探せるという喜びも持ち

ました。これからのライブラリアンの新しい役目ともいえます。演習をさせていただけたことも大変役立ったと思います。
演習Ⅱと最後の小試験にはもう少し時間が必要でした。演習Ⅰは充分な時間が有り、納得ゆくまで文献を読んで判断でき90%の結果が得られましたが、演習Ⅱでは一つの文献をよく見る余裕もなく単に時間を焦るだけになりました。正しい判断が必要な内容の演習ですから次回には改善していただきたいと思います。最後の小試験も時間の焦りから質問をよく理解せずに間違った回答が多く、終了後落ち着いて考えるといともやさしい質問であったことを知り残念でした。次回にも是非参加させていただきたいと思っています。また、これからのライブラリアンにとって非常に大事なことと考えますのでこのようなワークショップを続けて開催していただきたいと思います。

11．図書館の現場では「まだ」医師ら臨床からのEBMへの関心、要望がそれほど強くは聞こえてきません。情報の作り手、提供者以外に医療従事者へのPR(?)(の認識)が足りないのではないかと、いう気がします。
12．今回、当館の検索環境の不備、職員(私)の知識の乏しさを改善したく研修に参加させていただきました。そのため、個人の能力が研修の内容に追いつかないこともありましたが、研修を受けてみて、内容も充実しており、受講後、業務へのやる気も出てくるプログラムであると感じました。また、機会がありましたら参加させていただけたらと思います。
13．1日目、参加できなくて残念でした。今後もこのようなワークショップを関西で開催して下さい。
14．RCT、CCTの見分け方が、完全に理解できたとはいえない。ハンドリサーチの実習は、今回の教材だけでなく、ある程度数をこなすことと、RCT、CCTの正確な理解が必要であろう。今回の養成講座を補うような形で参考資料などを読むなどすることが自分にとって必要だと思った。参加者の名札などがあったほうが、食事の時に話すきっかけを作るのに便利だと思った。
15．私も含めてですがEBM関連の研修を受けようとする人々は、同一集団になりがちです。もっと広範囲にPRして、たまたま参加してしまえるくらいの機会を多数作って欲しいと思います。また大阪、出来たら南大阪で開催されるようなことがありましたら、参加したいと思います。本当に参加させていただき感謝しております。
16．Web検索でのアクセス、スピードやPower Pointでのプレゼンの手際が全体的によくなかったように思う。参加者の手元でモニターが見れるような施設で行うべきだ。DBの作成者側として今までEBMを意識した作成をあまりしてこなかった経緯もあるので、問題点が浮き彫りになって、今後の作成方法に非常に参考になった。
17．急な社用で2日目の途中退席せざるをえなくなりましたが残念です。機会を見てまた参加させて頂きたいと思います。行き届いたお心遣いに感謝申し上げます。研究の御成果をご期待申しあげます。
18．全体に「目からウロコ」を経験しました。帰ったらコクランDBの導入を検討したいと思っています。また先生方に情報を伝えたいです。
19．悪天候の中、遠方より来て下さった講師の先生方に感謝でいっぱいです。今後もEBM普及のため、頑張って下さい。
20．ありがとうございました。久しぶりに脳に酸素が少し入ったような気がします。
21．ワークショップに参加させていただきありがとうございました。私自身、予備知識が殆どなかったので、講義内容に専門用語が飛び交い理解が追いつかなかった。言葉を拾い集めるのに精一杯なものもありました。それだけ、全てが新鮮でであり興味あるものでした。
22．せっかくの機会であったのに、予期せぬ天候の悪影響で講義の入れ替えや中止、時間の長短があったのが残念であった。しかし、始めの予定通りのカリキュラムでは時間不足であったと思う。(特に第1日目)講師が全体に早口で、パワーポイントの画面を見ながら、ノートを取り、説明を理解するのは少々難しいきらいがあった。

## 表 2-20　小テスト結果

| No. | 出席 第1日 | 第2日 | 回収 | 問1 解答 | 判定 | 問2 解答 | 判定 | 問3 解答 | 判定 | 問4 解答 | 判定 | 問5 解答 | 判定 | 問6 解答 | 判定 | 問7 解答 | 判定 | 問8 解答 | 判定 | 問9 解答 | 判定 | 問10 解答 | 判定 | 得点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | e | × | a | × | d | × | c | ○ | a | × | b | ○ | b | ○ | b | ○ | b | × | 50 |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | ○ | ○ | ○ | - | × | b | ○ | a | × | c | × | c | ○ | c | × | - | × | b | ○ | d | × | c | ○ | 40 |
| 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | ○ | ○ | e | ○ | a | × | d | ○ | a | ○ | c | ○ | b | ○ | b | ○ | d | × | b | ○ | b | × | 70 |
| 6 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | a | × | d | ○ | c | × | c | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | d | × | c | ○ | 70 |
| 7 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | b | ○ | d | ○ | a | ○ | c | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | c | ○ | 100 |
| 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | b | ○ | d | ○ | c | × | c | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | c | × | c | ○ | 80 |
| 10 | | ○ | ○ | e | ○ | b | ○ | d | ○ | c | × | c | ○ | b | ○ | c | × | b | ○ | b | ○ | a | × | 70 |
| 11 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | b | ○ | d | ○ | c | × | b | × | c | × | b | ○ | c | × | b | ○ | c | ○ | 60 |
| 12 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | b | ○ | d | ○ | b | × | c | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | b | × | 80 |
| 13 | ○ | ○ | ○ | c | × | b | ○ | c | × | c | × | c | ○ | c | × | b | ○ | b | ○ | b | ○ | d | × | 50 |
| 14 | ○ | ○ | ○ | d | × | b | ○ | d | ○ | c | × | b | × | b | ○ | c | × | b | ○ | a | × | a | × | 40 |
| 15 | ○ | ○ | ○ | b | × | b | ○ | a | × | c | × | c | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | d | × | c | ○ | 60 |
| 16 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 17 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | * | × | d | ○ | a | ○ | d | × | b | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | c | ○ | 80 |
| 18 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | c | × | d | ○ | b | × | c | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | b | × | 70 |
| 19 | ○ | ○ | ○ | - | × | - | × | - | × | b | × | d | × | b | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | d | × | 40 |
| 20 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | b | ○ | d | ○ | a | ○ | d | × | b | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | d | × | 80 |
| 21 | | ○ | ○ | e | ○ | e | × | d | ○ | b | × | c | ○ | b | ○ | c | × | b | ○ | b | ○ | b | × | 60 |
| 22 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | e | × | d | ○ | c | × | c | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | c | × | c | ○ | 70 |
| 23 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | - | × | d | ○ | c | × | - | × | b | ○ | - | × | b | ○ | b | ○ | b | × | 50 |
| 24 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | e | × | c | × | c | × | c | ○ | c | × | b | ○ | a | × | b | ○ | c | ○ | 50 |
| 25 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | b | ○ | d | ○ | c | × | c | ○ | b | ○ | a | × | b | ○ | c | × | c | ○ | 70 |
| 26 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | × | | | | | | | |
| 27 | ○ | ○ | ○ | c | × | b | ○ | b | × | c | × | c | ○ | b | ○ | c | × | b | ○ | b | ○ | c | ○ | 60 |
| 28 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 30 | ○ | ○ | ○ | c | × | b | ○ | b | × | c | × | c | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | a | × | b | × | 50 |
| 31 | ○ | ○ | ○ | c | × | b | ○ | d | ○ | a | ○ | c | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | b | ○ | c | ○ | 90 |
| 32 | ○ | ○ | ○ | c | × | a | × | d | ○ | a | ○ | c | ○ | c | × | a | × | c | × | b | ○ | a | × | 40 |
| 33 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | b | ○ | d | ○ | a | ○ | c | ○ | c | × | b | ○ | b | ○ | b | ○ | c | ○ | 90 |
| 34 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | c | × | c | × | b | × | c | ○ | c | × | c | × | b | ○ | b | ○ | c | ○ | 50 |
| 35 | ○ | ○ | ○ | e | ○ | b | ○ | d | ○ | c | × | b | × | c | × | c | × | b | ○ | a | × | a | × | 40 |
| 正答 | | | | e | | b | | d | | a | | c | | b | | b | | b | | b | | c | | |
| 正答者数 | 27 | 30 | 28 | 19 | | 16 | | 19 | | 7 | | 21 | | 19 | | 18 | | 24 | | 19 | | 14 | | |
| 正答率 | | | | 67.9% | | 57.1% | | 67.9% | | 25.0% | | 75.0% | | 67.9% | | 64.3% | | 85.7% | | 67.9% | | 50.0% | | 62.9 |

資料 3

# 第 1 回 EBM 時代の医学メディアのあり方・ワークショップ関連資料

## (2000 年 11 月 16 日(木)、17 日(金)、東京開催)

目次　page


1. 第 1 回 EBM 時代の医学メディアのあり方・ワークショップ
プログラム ・・・・・・・・・ 50

2. 第 1 回 EBM 時代の医学メディアのあり方・ワークショップ
参加者名簿 ・・・・・・・・・ 51

3. 第 1 回 EBM 時代の医学メディアのあり方・ワークショップ
要旨 ・・・・・・・・・ 52

4. アンケート解析結果 ・・・・・・・・・ 54

(1) 参加者の属性 ・・・・・・・・・ 54
(2) 各セッションへの評価 ・・・・・・・・・ 56
(3) 全体への評価 ・・・・・・・・・ 63

5. 小テスト結果 ・・・・・・・・・ 68

## 1. 第1回EBM時代の医学メディアのあり方・ワークショッププログラム

2000年11月16日(木)　17:30　～　20:40

17:30 ～ 17:40　開会あいさつ・プログラムの説明
津谷　喜一郎（東京医科歯科大学　助教授）

17:40 ～ 17:45　事務局からの案内
岩崎　理香（国際医療福祉総合研究所　研究主幹）

17:45 ～ 18:30　世界の医学雑誌の動向－JAMAを例に－
岩石　隆光（JAMA日本語版　編集長）

18:30 ～ 19:10　The Cochrane Libraryの効果的使い方について
中山　健夫（京都大学　助教授）

19:10 ～ 19:20　－ coffee break －

19:20 ～ 20:00　PubMedの効果的使い方について
河合　富士美（聖路加国際病院医学図書館）

20:00 ～ 20:40　情報流通にはたす医学雑誌編集者の役割－構造化抄録を含めて－
山崎　茂明（愛知淑徳大学　教授）

2000年11月17日(金)　17:30　～　20:30

17:30 ～ 18:30　医学研究デザインの基礎
金子　善博（東京医科歯科大学　医師）

18:30 ～ 19:10　医中誌基本DBの効果的使い方について
松田　真美（医学中央雑誌刊行会）

19:10 ～ 19:20　－ coffee break －

19:20 ～ 20:30　日本の医学雑誌の動向
北澤　京子（日経BP社）
山本　宏　（中山書店）

2. 第1回EBM時代の医学メディアのあり方・ワークショップ参加者名簿

トレイニー

| No. | 氏名 | 所属 | 部署名 |
|---|---|---|---|
| 1 | 太田　幸二 | 医学中央雑誌刊行会 | |
| 2 | 岡村　世里奈 | 国際医療福祉総合研究所 | |
| 3 | 加藤　均 | 財団法人　国際医学情報センター | 情報資料部 |
| 4 | 川口　達也 | 日経BP社 | |
| 5 | 木村　純子 | 中山書店 | 編集部 |
| 6 | 日下部　聡美 | 毎日新聞社 | |
| 7 | 阪本　稔 | 株式会社　医学書院 | |
| 8 | 櫻木　容子 | 財団法人　国際医学情報センター | 開発部　翻訳課 |
| 9 | 重永　敦 | 財団法人　国際医学情報センター | |
| 10 | 末定　広光 | 株式会社　全日本病院出版会 | |
| 11 | 高志　昌宏 | 日経BP社 | |
| 12 | 高田　宜美 | 財団法人　国際医学情報センター | 情報資料部 |
| 13 | 中村　和也 | 株式会社　医療福祉総合研究所 | 出版課 |
| 14 | 早藤　弘 | 株式会社　日本臨牀社 | |
| 15 | 平位　信子 | 医学中央雑誌刊行会 | |
| 16 | 平田　直紀 | 医学中央雑誌刊行会 | |
| 17 | 三沢　一成 | 医学中央雑誌刊行会 | |
| 18 | 宮田　親平 | 医学ジャーナリスト協会 | |
| 19 | 渡辺　嘉之 | 株式会社　総合医学社 | |

トレイナー

| No. | 氏名 | 所属 |
|---|---|---|
| 1 | 岩石　隆光 | 毎日新聞社 |
| 2 | 金子　善博 | 東京医科歯科大学 |
| 3 | 河合　富士美 | 聖路加国際病院医学図書館 |
| 4 | 北澤　京子 | 日経BP社 |
| 5 | 津谷　喜一郎 | 東京医科歯科大学 |
| 6 | 中山　健夫 | 京都大学大学院医学研究科 |
| 7 | 松田　真美 | 医学中央雑誌刊行会 |
| 8 | 山崎　茂明 | 愛知淑徳大学 |
| 9 | 山本　宏 | 中山書店 |

他に準備のための研究協力者・スタッフ６人を要した。

## 3. 第1回EBM時代の医学メディアのあり方・ワークショップ要旨

### 世界の医学雑誌の動向　－JAMAを例に－

このセッションでは世界で19ヶ国に渡り、80万部発行されている医学雑誌「JAMA」について、（1）JAMAが如何にしてそのクオリティーを上げ、世界で3900ある医療関係の雑誌の中で生き残ってきたか（2）JAMAにおいてロイヤリティーを持つJAMA米語版とどういうやり取りをしながら JAMA 日本語版が創られてきたか、を焦点にJAMAに纏わる様々なエピソードを交えて話がなされた。また後半ではアメリカと日本の医学における考え方の違いを示唆しつつ、EBM の時代においては情報の共有化、アドボカシーグループの参入が重要であることを強調して話が閉められた。

### The Cochrane Library の効果的な使い方について

前半ではEBMとコクランライブラリーの関係について述べられた。まず、EBMについて教科書的な知識を簡単に述べられた。そしてEBMにおいて良く言われる「エビデンスを伝える」を目的として施行された医療技術評価プロジェクトであるコクラン共同研究、またその成果であるデータベース、コクランライブラリーについてその経緯また実際に各国のヘルスケアを良くするのにどのようなインパクトがあったかについて、実例を挙げて述べられた。後半ではCD-ROMを用いた、コクランライブラリーの使用デモが行われた。デモでは実際に検索を行いつつ、効率的な検索のため如何に工夫がなされているかが説明され、またデモ中の各画面の説明が行われた。

### Pub Medの効果的な使い方について

このセッションでは、世界最大の医学文献データベースであるメッドラインの使用デモが行われた。まずメッドラインの歴史、特徴が述べられ、実際にデモを行いながらメッドラインの画面の説明、効率的な検索の行い方、検索のコツ、様々な便利機能の紹介がなされ、最後にPub Medの使い方が記された書籍、HPが紹介された。

### 情報流通に果たす医学雑誌編集者の役割　－構造化抄録を含めて－

大量の情報化時代においてEBMを実践するには、効率的な情報流通が不可欠である。このセッションでは、世界における例として、コクランライブラリーまたメッドラインといった医学分野の代表的なデータベースが如何にしてEBM時代に対応して改良されていったか、また効率的な情報流通の好例として「ACP ジャーナル」を取り上げ具体的にどういった工夫がなされているかといったことが話された。そしてこういった具体例を通し、効率的な情報流通における構造化抄録、1次情報（医療情報）と2次情報（データベース）のリンケージ、RCT の採用などの必要性を述べ、こういった点で遅れているため日本は世界のデータベースにあまり貢献できていないことを示唆した。

医学デザインの基礎

このセッションは4つのセクションに分けられた。最初のセクションでは「なぜ臨床試験を行うか？」に始まり臨床試験の意義やその仕組み、ランダム化・盲検化などの概念の説明がなされた。2番目のセクションでは臨床試験の結果を解析するための統計学の基礎について具体例をあげて説明がされた。3番目のセクションでは臨床試験デザインを分類し、それぞれのデザインについて説明がなされた。そして最後に情報化時代における様々な意思決定の仕方、意思決定の際の注意点について述べられた。

医学中央雑誌の使い方

このセッションでは日本の代表的な医学データベースである医学中央雑誌の効率的な使い方について述べられた。セッションは大きく3つに分けられ（1）医学中央雑誌の歴史とデータベースの概要（収録文献数、収録内容など）（2）サービスの形態（冊子、CD-ROM、ウェブ）についての説明及びウェブサービスのデモ（3）2次情報データベースとしての役割と今後の課題について述べられた。

日本の医学雑誌の動向

このセッションでは（1）講演者が編集者の一員である「EBMジャーナル」の紹介をした後（2）EBMにおける情報構築は「医の再編」と言われその過程で必要とされる編集技術には編集者として学ぶものがあるとし、EBMというものを基礎的な知識を述べつつ全体的に眺め、その各所において編集者がどういう意識で以って接するべきかについて講演者の見解が述べられた。また後半はフリーディスカッション形式を取り、日本のEBMを創っていく一員として各人の意見が盛んに述べられた。

## 4. アンケート解析結果

### (1) 参加者の属性

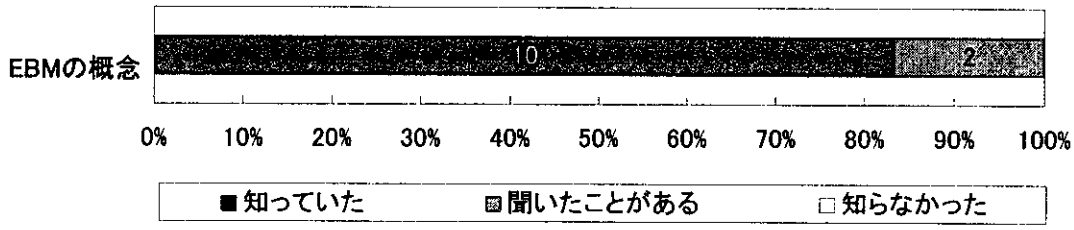


図3-1 EBM概念の知識

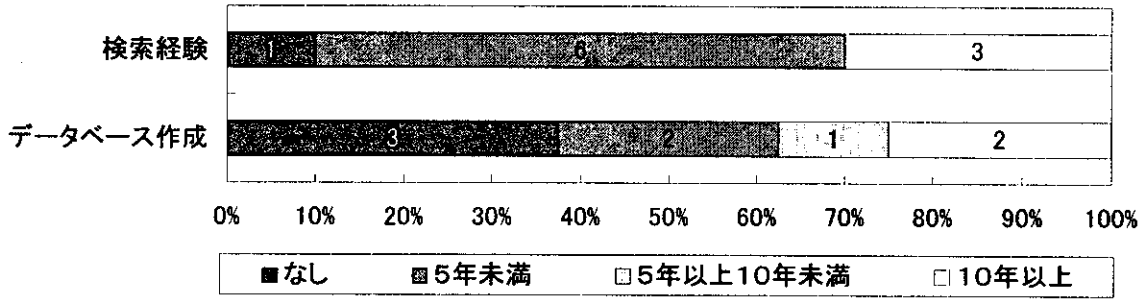


図3-2 検索及びデータベース作成の経験年数

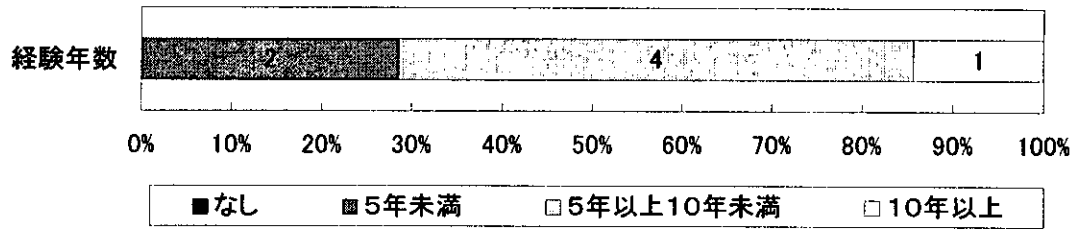


図3-3 医学雑誌の経験年数

表3-1 担当雑誌名

| | |
|---|---|
| MB Orthopaedics | 医学中央雑誌 |
| 日経メディカル | 日本臨床 |

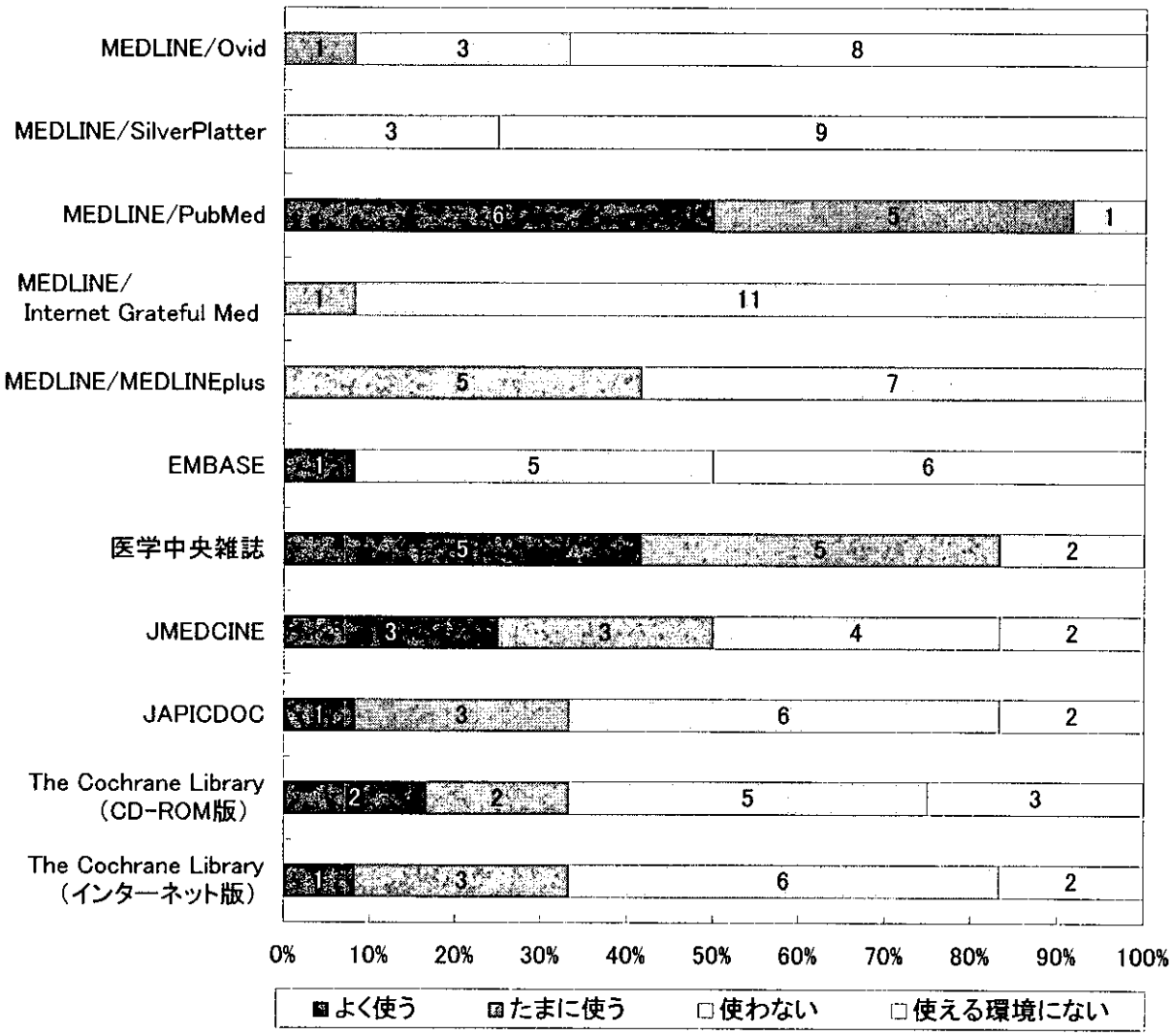


図3-4 データベースの利用状況

表3-2 その他利用するデータベース

| |
|---|
| 日本医書出版協会総目録(ホームページ) |
| 日経テレコンにある新聞記事DB |
| 今日の診療 |

(2) 各セッションへの評価

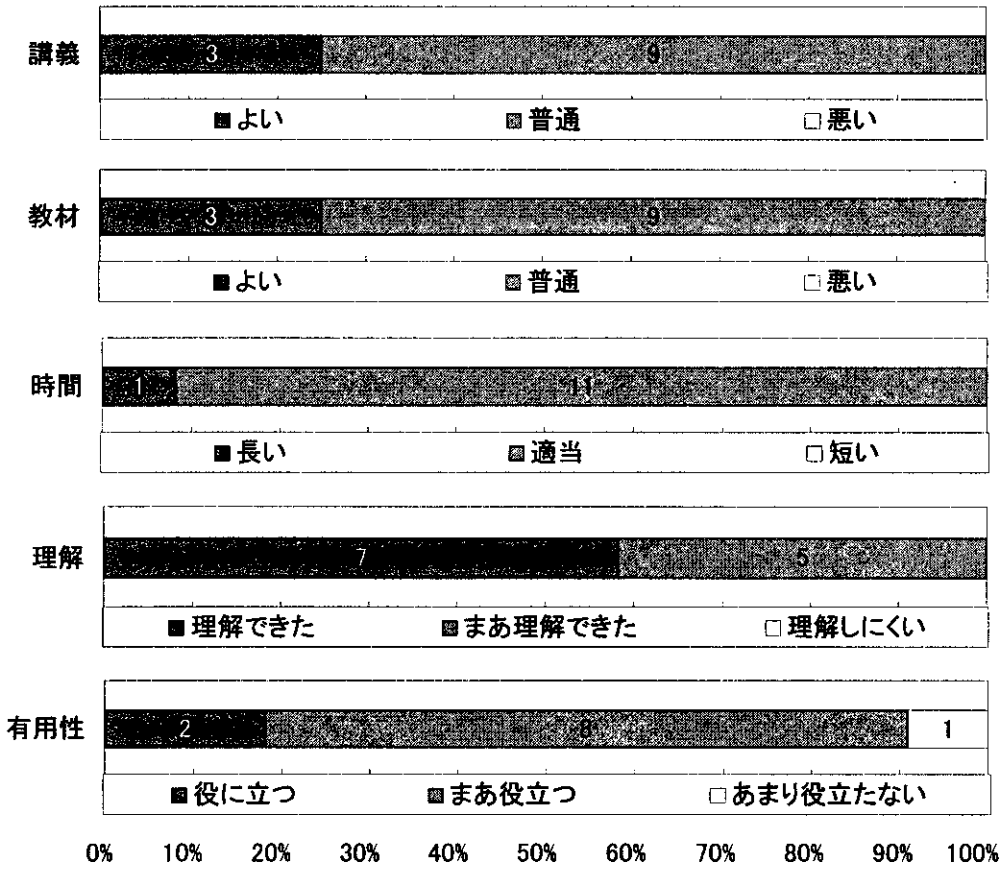


図3-5 世界の医学雑誌の動向－JAMAを例に－

表3-3 世界の医学雑誌の動向－JAMAを例に－

1．一般メディアに引用されることの重要性について指摘されていたのが面白かったが、実例の紹介があればなおよかった。
2．JAMAに連載されていた記事がEBMの教材になることがありますが、こうした点にも触れたほうがよかったのではないか。AMAの雑誌に載っているという点で。
3．投稿原稿の採択の背景、現在の編集委員メンバー(日本語版)
4．JAMA日本語版の詳細な説明(編集方針など)を教材に載せるべきだと思います。
5．裏話等面白い話を聞けた。有用性とは別の次元と思われる。
6．専門誌のstatusは一般誌(紙)での引用が大きなFactorになるという点。

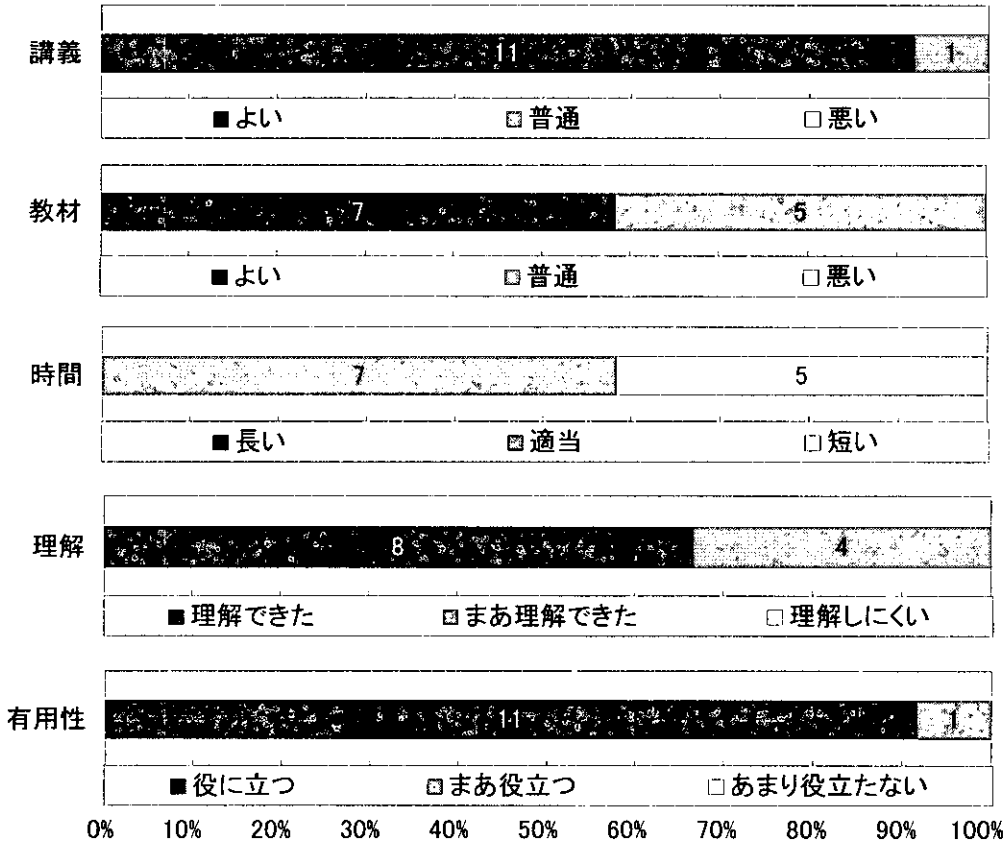


図3－6 The Cochrane Libraryの効果的使い方について

表3-4 The Cochrane Libraryの効果的使い方について

1．MeSHについて
2．やはり実際にさわってみないと・・・
3．講義の内容が工夫されており、ポイントも押さえながら理解しやすいものであった。
4．実際の検索部分がもう少し長いほうがよいが夜のセミナーなのでこの程度でもよいのかもしれない。
5．データの収集・解析のプロセスを知り得たこと、未発表データの収集に努力されていることがうかがえ、libraryの質の高さを理解できた。
6．データベースの種類が多く、MEDLINEなどと比較すると、統計的なデータも多いので、もう少し時間を割いて説明していただきたかったです。
7．わかりやすかった。
8．オッズ比の説明がもう少し初歩からやっていただけるとよかった。